

# 日本共産党国会議員団と近畿における かけがえのない役割について

17年5月13日「党議席の値打ち学習会」での こくた恵二党国会対策委員長長の講演(大要)

日本共産党国会議員団近畿ブロック事務所主催で5月13日に開かれた「党議席の値打ち学習会」での、こくた恵二・党国会対策委員長(比例代表・京都1区候補)の講演大要を紹介いたします。

## 一、すべてを総選挙勝利、都議会議員選挙勝利につなげる努力を

レジュメの最初に、「すべてを総選挙勝利、都議会議員選挙勝利につなげる努力を」と書きました。4月5日に開かれた幹部会で志位委員長は、「総選挙勝利はわが党にとって最大の任務」であり、「総選挙躍進の目標に魂を入れる」ということを強調しました。「今が地力をつけるチャンス、『黄金の期間』であり、この時期に必ず党勢の上げ潮をつくって総選挙をたたかう」ということを明らかにしております。先日(5月11日)に開かれた全国都道府県委員長会議では党勢拡大の飛躍へ「目の色を変えた取り組み」を意思統一しました。この点をまず踏まえることが大切です。

### ●「比例は日本共産党」片時も忘れない

私は特に「すべてを」と報告しましたが、ここで私が何を言おうとしているかという、まず「比例は日本共産党を」ということを片時も忘れてはならないということです。どうしても候補者がいる選挙区中心になる傾向があり、なかなかそこから脱却できません。「比例は日本共産党」は、いくら強調しても強調しすぎることは決してありません。

### ●一つひとつの努力を総選挙勝利へ

もう一つは、一つひとつの努力を日本共産党の総選挙の勝利に向けてやる、ということです。「赤旗」でも府県の民報でも、総選挙を常に忘れてはなりません。記事、例えば「民泊」問題を書くにしても、地方議員がどう取り組んだかというだけではなく、国会での追及を記事に入れるということが必要です。

地方議員の責任者の方も来ておられますから、あえて言わせていただきたいのですが、議員ニュースの中に日常的に総選挙の課題や「比例は共産党」が入っているか、実際は普段は入っていないことが多いですね。総選挙勝利はわが党にとって最大の任務です。

比例は日常的に取り組むべきであり、選挙が近づくと書き出すというのではダメです。

国会議員がどういう活動をしているか十分わからないことがあれば国会議員団に問い合わせていただければと思います。そういうことを含めて励まし合いながらお互いに切磋琢磨して努力をしようということと呼び掛けたいと思っています。



## 一、今国会の焦点と当面する課題、安倍改憲

### (1) 安倍首相9条改憲発言

なんとといっても今の焦点は安倍首相の憲法9条に自衛隊を明記する改憲を行う、2020年の施行をめざすという発言です。改憲派の集会と「読売」インタビューで改憲を表明しましたが、それを国会で聞かれると説明拒否をする。自民党総裁の発言だと逃げる、しかし、総理と総裁は違うなど成り立ちません。

こういう問題が出たときに、やっぱりズバリ本質を言う。憲法違反だと言う必要があります。これは憲法99条、憲法擁護尊重義務の違反だということと、立法府に対する行政府の不当な介入、三権分立に反する二重の憲法違反だということを、ズバッと言うことが必要です。

今度の問題は、一般のメディアでも「憲法9条が核心」と報道しています。憲法の平和の精神に風穴を開けるというのが根本にあります。だから私たちは憲法がなぜ生まれたのか、そして前文がどういう精神で書かれたか、9条はどうだったかということ学ぶ必要があります。

改憲発言は単に存在する自衛隊を憲法上追認するにとどまらず、文字通り無制限の海外での武力行使に道を開くものとなります。3項をもうけ自衛隊を明記することは、例え2項を残したとしても死文化に道を開く一つまり9条が9条でなくなる訳です。

## ●ネタ元は「日本（にっぽん）会議」

その背景—志位委員長が右翼改憲団体「日本会議」のシナリオだと指摘しましたが—これは『明日への選択』（右派シンクタンクの日本政策研究センター機関誌）の2016年9月号、11月号で伊藤哲夫氏（日本会議の常任理事、日本政策研究センター代表）、小坂実氏（同センター研究部長）が書いています。そこで右派勢力の改憲戦略を次のように語っています。

「改憲勢力が3分の2を突破した一方、戦争法（安保法制）反対で運動が盛り上がるということを踏まえて、『我々の改憲戦略が大事だ』。第一は、護憲派陣営の反転攻勢だ」ということを言いまして、「ここで問うべきは民進党である。彼らは先の参院選において防衛予算を人殺し予算と呼ぶ共産党と共闘体制をとった。ならば民進党、この共産党の主張を認めるのか」と言う。そして「むしろ護憲派にこちらから揺さぶりをかけ、彼らに昨年のような大々的な統一戦線を容易に形成させないための積極的戦略に回る」と。この問題で攻めると言っている訳ですね。そしてその上で、「“憲法の足らざるを補うという冷静な発想が必要ではないか”と問い掛ける話なんだ」と語っています。

例えば前文に『『国家の存立を、全力をもって確保し』』といった言葉を補うこと。憲法第9条に三項を加え、『但し前項の規定は確立された国際法に基づく自衛のための実力の保持を否定するものではない』といった規定を入れること。このようにあけすけに言っているんですね。

小坂さんは「9条二項は今や国家、国民の生存を妨げる障害物と化したと言っても決して過言ではない。速やかに9条二項を削除するか、自衛隊を明記した第三項を加えて二項を空文化させるべきである」とそのものズバリ言っています。

## ●せめぎ合いの中にある

したがって、9条に三項を加えて自衛隊を明記せよということは、たとえ二項を残しても死文化に道を開くと指摘してきましたけど、彼らのほうがあからさまに“空文化させるべきだ”と言っていると。だから安倍改憲発言は、「日本会議」のシナリオだと、右派勢力の狙いがここにあるということを暴露する必要があります。

そこで、安倍首相とわが党の小池書記局長の予算委員会での議論げず。安倍さんは、「憲法9条二項に国防軍を書きこむことは支持が得られない」と答弁しています。このことはとても重要です。つまり今までの自民党憲法草案の考え方はうまくいかないと公然と述べたわけですね。石破さんなどは「敗北主義」と批判しています。言い方は別にして極めて大事な問題は、彼らが自民党の改憲草案自身を捨てざるをえない。運動が追い込んでいくということなんですね。そういうせめぎ合いのなかにあるということだと思っています。



## ●総選挙、国民投票で勝てるというおごりとあせり

同時に彼らが、「お試し改憲」とか、「緊急事態条項」とか改憲についていろいろ言っていましたけど、本音は9条にあるということが鮮明になった。ここには、今の状況でいけば、安倍政権として次の総選挙に勝てるし、憲法改正の国民投票で勝てるというおごりがある一方、国民の世論に対する焦りもあります。両面を見て国民運動を起こしていくところに重心をおろさねばなりません。それらを踏まえて憲法問題をたたくかいたいと思います。

## (2) 共謀罪

### ●この間の論戦で何が明らかになったか

後半国会では「共謀罪」が最大の焦点になっています。強行採決が取りざたされていますが、論戦で政府はボロボロだということです。

#### ・「内心の自由」を侵す

私たちは「内心の自由を侵す」と指摘してきました。自民党は党内向けのパンフレットに、「テロ対策だ。一般の人には関係ない」と書いています。彼らは彼らなりに一生懸命宣伝しているという現実があります。ところがそこに一番問題がある。内心の自由を侵す違憲立法だというのが本質です。「内心の自由を侵す」という本質をごまかそうとするから荒唐無稽な答弁が行われる。その典型が下見と花見の違いについての答弁です。「花見と犯行の下見の違いは」と質問されて、「ビールと弁当を持っていたら花見、地図と双眼鏡を持っていたら犯行の下見と」。

・「テロ対策」は口実にしか過ぎません。参考人質疑で高山佳奈子京大教授は「テロ対策はすでに立法的手当がなされている」と陳述しました。一般の方々も対象になることは明白です。岐阜県大垣警察署による、風力発電勉強会参加者の情報収集と監視など、今でも警察が国民監視を日常的に行っているではありませんか。

## 一、日本共産党の国会議員団の全体の奮闘と実績を念頭に

### ●党国会議員団の存在感が増した

皆さんの奮闘と国民の支持による前進が、日本共産党国会議員団の存在感を増したということがキーポイントです。

### ●何が変わったか

#### ・全常任委員会に委員を配置

何が変わったかということ、私は党と国民との垣根が低くなったということが一番大事な点だと思っています。国会では全常任委員会に党議員を配置をする。未配置だった農水委員会でTPP問題に間に合いました。法務委員会でも盗聴法と共謀罪の審議に間に合いました。

#### ・質問時間が大幅に増えた

質問時間が大幅に増えました。倍にはなりませんでした。われわれは質問時間を1分、2分取るのに本当に苦労してきました。以前は本会議で反対討論させろという主張をし、ようやく3分だと言われる。3分で毎回つくっていました。今だと10分よこせと迫っている。1分、1分がどれほど大切か骨身にしています。カジノ法案審議で自民党は質問時間が余って般若心経や夏目漱石を読みました。本当に国民をバカにしている。自民党議員の墮落の象徴です。

#### ・多様な質問、地元要求への対応

まだまだ不十分ですが、多様な質問ができて、地元要求にも対応することができるようになりました。予算委員会分科会で質問したり、委員会の枠をこえて相互交流をしています。

#### ・野党第二党の存在感、法案の共同提出

野党の国会対策委員長会談、野党書記局長・幹事長会談などで野党第二党の位置だからこそ、存在感を示していると思います。法案の野党共同提出なども可能となりました。公約実現という面でも前進です。

### ●政党助成金について

政党助成金について一言。もらえばいいじゃないかと、そこから発展して別の党に渡すのもけしからんと言う人がいます。それは分かりますが、きっぱり主張し、受け取りを拒否しているのは憲法違反だからです。政党助成金は、今や国会と政党の墮落と腐敗の仕掛けだと言わなければなりません。そういうものをもらっていいのかと攻勢的に攻める必要があります。

## 一、野党と市民の共闘について

(1) 新しい政治対決の構図 わずか1年半の大きな変化をみる

私たちが2015年9月19日、安保法制が強行採決されたその日に、戦争法阻止・立憲主義回復の国民連合政権を提

案しました。そこから1年半で大きな変化をつくっていることをよくみる必要があります。

### 1. 16年2月19日 野党党首会談

簡単にスケッチしますと、2016年2月19日、野党党首会談で、①安保法制の廃止と集団的自衛権行使の閣議決定撤回を共通の目標とする、②安倍政権の打倒をめざす、③国政選挙で与党およびその補完勢力を少数に追い込む、④国会における対応や国政選挙などあらゆる場面でできる限りの協力を行う—という4項目で合意しました。ここでは「国政選挙」と書いていることが大切です。

### 2. 同年5月19日 党首会談でさらなる推進を確認。書記局長・幹事長会談

参議院選挙の目前、5月19日、党首会談で国政選挙での協力のさらなる推進を確認しました。つづく書記局長・幹事長会談で、①戦争法・安保法制の廃止、立憲主義の回復、②アベノミクスによる格差と貧困の拡大を是正する、③TPP・沖縄問題などで国民の声に耳を傾けない強権的政治を変える、④憲法改悪を許さない—ことを合意しました。

各党の意見の違いを真剣な議論の中でのりこえ、一致点を探る中で合意をかちとりました。

### 3. 「日本共産党も変わらなければ」の思い

#### ・従来の方針を転換

この間、私たちは日本共産党も変わらなければという思いでやってきました。「清水の舞台から飛び降りる」という思いです。全選挙区での野党共闘の方針提起などは大きな方針転換です。日本の政治の危機的現状と国民の思いを背景に、従来の方針を転換しました。

そうは言っても参院選挙で複数区でたたかった府県では野党共闘は見えない、実感できないという声もあります。また各県でもいろんな事情もあるわけです。2月19日に野党共闘を打ち出したとき、半分の選挙区でできればいい、と言われていましたが、とにかく1人区で全部やってみようという努力をしました。結果としては全選挙区で共闘ができた、そこに大きな意味があると思います。中身は千差万別です。それは百も承知です。

#### (2) 「共闘の進化・深化」

「共闘の進化・深化」と書きましたが、今年の4月5日、市民連合と4野党は共通政策の土台を確認しました。市民連合の政策の土台の提起をもとに、各党が検討して、現段階で合意できる内容として発表しました。それをこれからも発展させていく訳ですが、政策の土台を決めたという点で大きな意味があります。それともう一つ、この間の野党共闘の発展は何かといえば、大衆運動についても一緒にたたかうことも決めました。安保法案廃止 2000万人署名などに取り組んだ訳ですが、いま現在起こっている諸問題、共謀罪、森友問題など今の国民的課題についてもともにたたかう、大衆運動も

やる、ということも決めました。これが大きな発展だと思っています。

- 一つひとつ突破する

京都は参院選で、野党共闘はやっていませんが、昨年 12 月 25 日、民進党の松野頼久さん、自由党の小沢一郎さん、総がかり実行委員会の福山真劫さんと私が一緒に京都駅前街頭演説しました。

一つ一つのしがらみや問題などを突破し、乗り越えての共同街宣の成功にこぎつけた大きな意味があります。私たちがやっていることは政策のさらなる発展と、候補者の調整という2つのことに取り組んでいるわけです。連休中も精力的に取り組みました。

### (3) 日本共産党の役割

日本共産党の役割についてですが、われわれは誠実に約束事、決まりごとを履行している。そのことが市民団体との信頼関係を深めています。福岡と東京で補欠選挙がありました。現場ではいろんな混乱もありましたが、共産党はどんなことがあっても約束を守る。共闘の前進を誠実に履行することがみんなわかるから、選挙後、やっぱり共産党はよくがんばってくれたという評価になる訳です。

- 北朝鮮問題

北朝鮮の問題で一言いっておきます。核・ミサイル開発は絶対に容認できない。解決の方法は外交的解決しかない、この二つをズバリ言う必要があります。5月1日にトランプ大統領もティラーソン國務長官も「金正恩委員長と直接会うことが適切なら会う」と発言。トランプ政権は中国・習近平主席に「朝鮮が核・ミサイル放棄するなら」体制転換は求めない、金政権の崩壊はめざさない、38度線を越えて侵攻しない、再統一を急がない—という「四つの『ノー』」を約束しています。米朝の協議が始まっています。中国、ロシアは6カ国協議を含む対話による解決を呼びかけています。韓国でも対話による解決を訴えた大統領が誕生しました。一つの流れがつくられつつあります。経済制裁の強化と一体に外交交渉し、交渉の中で核・ミサイル開発放棄を迫ることが重要です。

<世界の流れに逆行、「戦争する国づくり」に利用>

しかし、安倍首相も岸田外相も6カ国協議について何の解決にもつながらないと言う。世界の流れからするととんでもない方向に行っている。やっていることは安保法制を発動し、米艦防護を実施する。しかも5月1日にトランプ氏が会ってもよいと言った日、北朝鮮が「緊張のピークはすぎた」と声明を発表した日に米艦防護を行うおぞましきです。単に軍事対軍事というだけにとどまらず、北朝鮮を「戦争する国づくり」に利用し、世界の情勢からずれたことをやっている。それが際立っていることが特徴です。

- 国際的な反核運動の新たな到達点と野党外交

核兵器禁止条約実現への大きなうねりと被爆国日本を代表する党の姿が鮮明です。

「核兵器禁止条約締結国連会議」の画期的、歴史的意義をつかむことが基本です。①戦後の歴史で初めて、核兵器禁止条約締結に向けた多国間の国際交渉が開始された。②各国政府と市民社会によって構成された会議。被爆者、核実験被害者の証言は感銘を与えた。③「国連会議」をめぐる、世界の主流と逆流が鮮やかに浮き彫りになった。

日本政府は、会議に出席しながら「交渉には参加しない」と表明するという情けない姿をさらしました。その一方、志位委員長を先頭にする日本共産党代表団は、戦争被爆国日本を代表する活動を行いました。日本共産党の「国連会議」への参加が、党の野党外交のステージとスケールを一段と高めたと言えます。

世界は、逆流や複雑さをはらみながらも、着実に平和と進歩への歩みを刻んでいることを確信にして取り組みを強めましょう。

### (4) 日本共産党への偏見に基づく攻撃を打ち破ろう

日本共産党への偏見を打ち破る必要があります。5月9日の参院予算委員会での小池さんと安倍首相との国会論戦で、浮かびあがったことは何か。日本共産党は自衛隊をどう考えているかということもわかりやすく示しました。自衛隊をめぐる焦点が何で、将来の展望はどうか。共産党は自衛隊のことをああいう風と考えているのか、を初めて知ったとの官僚からの意見も寄せられています。

参院選の初日、自民党長崎県連会長は「天皇制否定、自衛隊否定、暴力革命肯定の共産党、その党といっしょにやる候補がいいのか」と誹謗中傷しました。

この前の参院選での香川県での民進党・共産党間の確認文書が非常に大切です。①「資本主義の枠内での民主的改革」、私有財産の保障が基本、②「平和外交を重視するが、日米安保条約の廃棄や自衛隊の解消という共産党の政策は野党共闘に持ち込まない」、③「天皇制を含めた現行憲法の全条項を守る」、④「一党独裁制を否定し議会制民主主義および選挙による政権交代制を堅持する」—。これは極めて大事な意味を持っています。

## 一、維新の会の政治的本質

維新の会は改革者を装っていますが、本質は自民党の別働隊であり、憲法改悪の尖兵です。改革者の装いをはがすことが重要です。森友学園問題でも小学校の認可などでも深く関わっていることは、橋下氏の発言や籠池理事長の証人質問で同党の政治家の名前がでたことでも明らかです。大阪では力ジノ推進と万博は「二戸一」と言われているほどです。

国会では安倍内閣礼賛と野党批判が唯一の役割です。国会の審議の場で民進党や共産党を一方向的に批判します。明らかにルール違反です。答弁席に民進党も共産党もいないわけで、国会運営の民主主義についての無理解であるだけでなく、破

壊者であると言えます。国民の要求とは無縁な存在で、実現を阻む潮流だということも指摘しておきます。

## 一、近畿における日本共産党の歴史と伝統

・全県に国会議員を持った歴史と伝統を誇りに—もっと歴史を語ろう

近畿二府四県は全府県に国会議員を持った歴史と伝統があります。全国最強の地方議員団を持ち、全国最有力の党勢力を持つ地域です。近畿の共産党の歴史もよく知り誇りをもって闘いましょう。キラ星のような先達に、改めて光を当てる必要があります。たとえば原発問題なら吉井英勝さんと言う具合に。

## 一、現職議員の活躍とかけがえのない役割

・衆参あわせ 10 人を力にする

近畿関係のすべての衆参議員を力にすることが大切です。衆議院で 4 人、参議院で 6 人、合わせて 10 人もいます。

・総選挙に向けて 現職議員の値打ちとそのポイント

宮本たけしさんは森友学園問題追及のエースです。徹底した調査と緻密な論理で鋭く迫りました。「弱きを助け巨悪に挑む」は信条です。なぜこの問題が重要なのか、位置づけが大切です。暮らしが厳しいなか、昭恵夫人に頼めば国有財産を 8 億円も値引きするのか—国民の怒りは続いています。また宮本さんは高等教育の無償化と奨学金問題のパイオニアでもあります。

清水ただしさんはカジノ徹底追及の第一人者。賭博で儲けた金で依存症を救うというのか、経済の発展なんてばかげた話だということを明らかにしている。盗聴法問題で大きな役割を果たし、軽井沢のバス転落事故でもフットワーク軽く、犠牲になった学生を指導していた「尾木ママ」に話を伺ったりし、交通分野の規制緩和という根本を暴きました。淀川左岸線問題の追及も光っています。

堀内照文さんは社会保障のエキスパート。「保育園落ちた」問題の本質を突いたのは堀内さん。子育て問題で本質をえぐる論戦をし、待機児童は国の責任とし、規制緩和といった問題を始めとしてたたかいました。労働者派遣法の論戦を行い、6 千万の労働者階級の利益を一步も譲らずにたたかい抜いています。介護保険の改悪に真正面から立ち向かい、災害対策でも阪神淡路大震災の被災者救援活動を担ってきた議員ならではの取り組みです。

市田忠義さんは党書記局長を 13 年間務め、現在副委員長として「第 3 の躍進」の扉を開きました。環境委員会に所属し、「水俣病と言えば市田」というほど現地から全幅の信頼を寄せられている。「ぬくもりの政治家」で練達の士でもあります。

山下よしきさんは党副委員長。体調を回復し元気いっぱいです。参議院における沖縄の担当。オスプレイの危険を次々と暴露し、党の国民運動の責任者として奮闘しています。

井上さとしさんは参議院国会対策委員長としてカナメの役。安保外交委員会の責任者、戦争法廃止、南スーダンPKOなどを追及する安保問題の第一人者。被爆二世でもあり核兵器廃絶がライフワーク。

大門実紀史さんは経済論戦で負けたことなしの論客。消費税増税、大企業優遇税制、タックスハイブン問題などをやり、銀行カードローンを規制させる、現実の経済問題で国民の利益を守るヒットを次々と飛ばしています。

辰巳孝太郎さんは共産党若手政治家の筆頭です。森友問題究明チームの責任者。八億円の値引きに根拠なしを浮き彫りにしました。コンビニの問題や「民泊」問題も取りくんでいます。「民泊」問題ではTPPとも絡めて論戦しました。

倉林明子さんは年金カットノーの論戦で厚労省を追い詰めました。障害者、弱者に心を寄せる温かい人柄。酸いも甘いもかみ分ける人柄に他党も信頼を寄せる苦労人。高浜原発の破たんを明らかにした論戦は見事でした。避難計画がいかに机上の空論かということ暴露した方です。

最後に私のことをいうと、野党共闘のカナメ。国会対策委員長を 20 年務めています。国土交通委員として 7 兆円の 6 つの海峡横断道路を凍結させました。

### ●日本共産党の躍進なしに野党共闘の前進はない

今われわれがめざしているのは、野党の共闘だが、その前提となるのは、日本共産党の躍進、党の躍進なしに野党共闘の前進はありません。野党共闘がどうなるかという様子見になってはなりません。党綱領は、統一戦線は共産党の前進にありと書いてあります。そこに力を注ぐ。その上でいろんな角度からみて私たちの活動を改善する。なおかつ、党議員の持っている良さをとおおいに宣伝していただければ新しい飛躍につながると思います。おおきに。